

## 山中湖フィールドトリップレポート

岩元勇都

The University of Tokyo

乾いた落ち葉を踏むいくつかのリズムの中で、冷たく澄んだ空気を肺いっぱい吸い込む。前を歩く4人を照らすヘッドライトは、私たちが透き通る鏡となった静かな山中湖まで導く。動物たちはもう寝ているだろうか。研究員の話だと、夜行性のコウモリも、この時期はそこまで活発ではないという。

普段東京にいるときは、意識の外側で、どこか友人を迎え入れるというふうに構えていたのか。山中湖での散策が、共にたどり着いた湖畔での星空が、特別誰にとっても新しいものであるように思えた。

翌朝は日の出前に寮を離れ、自転車で朝日に照らされる富士を目指した。風のようにして共に進み、夜の青いままの富士が、次第に朝の短い間だけ見せる薄紅に染まっていく姿を見届けた。

物語の中のような2日はあっという間だった。

